

4.2. SPA（Software Practice Approach）

【概要】

SPA は、大学院生への研究の進め方に関する教育の一つで、大学と実用現場が協力することによって、より質の高い実践面を強化した教育の実現、および社会とのつながりを学生に経験させることを目指すものである。それによって、教育面・研究面それぞれにおける効果を狙っている。

教育面における SPA による効果は、以下のようなものを期待している。

- 高い適用能力を持つ学生の育成
- 幅広い知見を持つ学生の教育
- 理論だけでなく、実践面も見越した考えができる学生の育成

研究面における SPA は、大学院生への現場主義研究の入門であり、実用研究への第 1 段階と位置づけている。現場には、机上の理論では解決できない問題があること、本来ソフトウェア技術は応用技術であり、それゆえに現場にこそ常に新しい題材があることを体験し、その経験を以後の研究活動に反映することを目指す。これにより、実践面を強化したより実用的な研究を行うことを期待している。

SPA の実施形態として、

- 実用現場から研究課題／事例を与えてもらい、それに一定期間で取り組む。
- 実用現場の研究・開発に一定期間、参加する。
- 大学で選んだ課題とその研究成果を実用現場で一定期間、試用する。

という形式がある。

学生は研究科教務委員会へ計画書を提出し、実施終了時にその実施報告書を提出する。また、SPA は大学院の修了要件の一つとして設定されており、SPA は PBL の成果を学外で発表することで置き換え可能としている。

【SPA 報告書】

平成 23 年度の SPA 実施報告書として、計 15 課題が提出された。

【広報活動】

平成 23 年 10 月 18 日（木）～19 日（金）に東北 IT ソリューション EXPO2011 が開催された。この場において、ソフトウェア情報学研究科の大学院生の行なっている研究活動を展示・発表するとともに、東北の企業の方々および一般の方々へ、SPA の広報活動を行なった（18 日のみ）。このイベントに参加した企業と学校の数 は 34 件であった。本研究科からは、「家畜預託事業を対象とした業務支援システム」「鮮魚小売店における仕入れ情報収集・配信システム」「岩手県私立幼稚園ポータルサイトの紹介」のテーマを発表した。